奈良工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	地理

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	電子制御工学科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『新地理総合』帝国書院・『詳解現代地図』二宮書店／配布プリント		
担当教員	竹原 信也		

到達目標

1．地図や統計資料の見方を学び、地理的な考え方を身につけることができる。
2．世界の生活・文化を自然環境と関連付けて理解し、異文化理解の重要性を説明できる。
3．世界の諸地域についての学習を通じて、日本との共通性や相違点を見出すことができる。
4．地域社会が直面する諸課題を理解するとともに、持続可能な社会の構築を目指して取り組むべきことを考察できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	地図や統計資料の見方を学び、地理的な考え方を身につけることができる。	地図や統計資料の見方を理解できる。	地図や統計資料を活用できず、地理的な見方・考え方ができない。
評価項目2	世界の生活・文化を自然環境と関連付けて理解し、異文化理解の重要性を説明できる。	世界の生活・文化を自然環境と関連付けて説明できる。	世界の生活・文化を自然環境と関連付けて説明できない。
評価項目3	世界の諸地域についての学習を通じて、日本との共通性や相違点を見出すことができる。	世界の諸地域についての学習を通じて、日本との相違点を見出すことができる。	世界の諸地域についての学習を通じて、日本との相違点を見出すことができない。
評価項目4	地域社会が直面する諸課題を理解するとともに、持続可能な社会の構築を目指して取り組むべきことを考察できる。	地域社会が直面する諸課題を理解できる。	地域社会が直面する諸課題を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程（本科１～５年）学習教育目標 （２）

教育方法等

概要	「所変われば品変わる」という故事があるように、地域によって習慣・宗教・言語などの社会環境には違いがみられ、それを取りまく自然環境も一様ではない。地理の授業では、世界の諸地域でみられる「地域性」を自然・社会の両面から理解するとともに、各地域が抱える諸問題について考える力を身につける。
授業の進め方・方法	地理の学習で重要になるのは、地図と統計資料を活用できる能力である。地図・統計資料の種類と読み方を学ぶとともに、実際に世界各地の情報に触れることで、地域の諸事象を考察する。そのため、必要に応じてプリントを配布する。また、思考力を高めるために、グループワークや視聴覚教材を活用する。
注意点	関連科目 歴史・公共・政治経済・人間環境学・地域学 学習指針 地域理解教育の一環として、地域に対する愛着を深めるとともに、地域が抱える問題を理解できることが重要である。 自己学習 到達目標を達成するためには、授業以外にも教科書を読むなど、授業内容について理解を深める必要がある。特に、授業後の復習を欠かさないようにすること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	講義の目的・概要・評価方法を理解できる。
		2週	地図と地理情報①	地図の種類と活用方法を理解できる。
		3週	地図と地理情報②	地域の変遷について、地形図から読み解くことができる。
		4週	地図と地理情報③	各種統計データを分析し、それを地図化できる。
		5週	世界の自然環境と文化①	世界の大地形について、分布と特徴を説明できる。
		6週	地球規模で広がる課題① 資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題について理解し、持続可能な社会に向けた取り組みを考察できる。
		7週	世界の自然環境と文化②	河川地形について理解を深め、人々の暮らしとの関係を考察できる。
		8週	世界の自然環境と文化③	海岸地形について理解を深め、人々の暮らしとの関係を考察できる。
	2ndQ	9週	世界の自然環境と文化④	火山地形について理解を深め、人々の暮らしとの関係を考察できる。
		10週	地球規模で広がる課題② 自然災害と防災	日本における自然災害とその規模について理解できる。
		11週	地球規模で広がる課題③ 身近な地域の防災意識	地域における災害リスクを考察し、ハザードマップを作成できる。
		12週	世界の自然環境と文化⑤	大気の大循環を理解し、気圧帯・恒常風を説明できる。
		13週	世界の自然環境と文化⑥	世界の気候区分を理解し、雨温図の違いを説明できる。
		14週	地域調査法①	統計データなどを利用した地域調査法を理解できる。

		15週	前期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答できる。
		16週	試験返却・解答	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消できる。
後期	3rdQ	1週	地域調査法②	収集した各種統計データなどをもとに、仮説を設定できる。
		2週	地域調査法③	地域調査で得た情報をもとに、仮説を検証できる。
		3週	地域調査法④	地域の諸課題について、調査結果をまとめることができる。
		4週	地域調査法⑤	調査結果を整理し、発表できる。
		5週	世界の諸地域① 東南アジア	熱帯地域の自然環境と農業について、理解できる。
		6週	世界の諸地域① 東南アジア	東南アジアの工業化と経済成長について、理解できる。
		7週	地球規模で広がる課題④ 人口・食料問題	人口問題と食料事情について理解し、各国の対応について考察できる。
		8週	世界の諸地域② 西アジア・アフリカ	乾燥地域の自然環境と農業について、理解できる。
	4thQ	9週	世界の諸地域② 西アジア・アフリカ	西アジア・アフリカの経済成長とイスラーム社会の変容について理解できる。
		10週	地球規模で広がる課題⑤ 宗教・民族問題	世界の宗教と民族文化の多様性について考察できる。
		11週	世界の諸地域③ ヨーロッパ	温帯地域の自然環境と農業について、理解できる。
		12週	世界の諸地域③ ヨーロッパ	ヨーロッパ統合と経済成長との関係について理解できる。
		13週	地球規模で広がる課題⑥ 都市問題	世界の都市構造について理解し、日本の特徴について考察できる。
		14週	地球規模で広がる課題⑦ 環境問題	地球的課題の解決に向けて、私たちのできることを考察できる。
		15週	学年末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	試験返却・解答	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後6,後7,後8,後9,後10,後12,後13
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前12,前13,前14,後2,後3,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	前12,後4,後5,後8,後10,後11,後13,後14
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	前12,後4,後5,後7,後10,後11,後14
	工学基礎	グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	後1,後2,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	後1,後2,後8,後10,後11,後12,後13,後14
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	前12,後1,後2,後6,後7,後10,後11,後13,後14

評価割合

	試験（前期末・学年末）	提出物・グループワークの取り組み	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100